

2020 年度第 9 回価格審査会の開催について

2020 年度第 9 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2020 年 12 月 15 日(火) ～17 日 (木)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2020 年度第 8 価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 9 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号、 「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
異形棒鋼及びねじ節鉄筋(北陸、沖縄を除く各都市)、鋼板(北海道、東北、中部、九州の各都市)、伸銅品(全都市)、レディーミクストコンクリート（北秋田B、茂原、東金、横須賀、小田原、南足柄、沼津、御殿場、小山町、下関A、下関B、新居浜、人吉、五木）、コンクリート用骨材(佐渡、岡山、倉敷A、倉敷B、津山、総社、美作)、コンクリート型枠用合板(関東、北陸、近畿の各都市)、遠心力鉄筋コンクリート管(北海道、近畿の各都市)、ボックスカルバート(東京、長野)、コンクリート擁壁(東京、長野)、板ガラス(全都市)、普通合板(東北、関東、北陸、近畿の各都市)、IV電線(全都市)、燃料油:軽油スタンド渡し(四国、九州を除く各都市)、鉄スクラップ(全都市)、非鉄スクラップ(全都市)など	
【土木コスト情報】	
市場単価：鉄筋工（石川、福井）	
標準単価：橋梁塗装工、構造物とこわし工、コンクリートブロック積工、表面含侵工、剥落防止工	

(北海道、東北、中国の各都市) など

【建築コスト情報】

市場単価：型枠工事（福井）、ガラス工事（全都市）

標準施単：石工事（東京）、ガラス工事（全都市）など

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

一般建築用木材(四国の各都市)、燃料油:軽油スタンド渡し（高知）など

【土木コスト情報】

市場単価：鉄筋工（埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、静岡、愛知、三重）

標準単価：橋梁塗装工、構造物とこわし工、コンクリートブロック積工、表面含侵工、剥落防止工ほか（徳島、香川、高知、沖縄）

【建築コスト情報】

市場単価：鉄筋工事（関東、中部の各都市）、型枠工事（東京、那覇）、アスファルト防水工事（沖縄除く各都市）、内装ボード工（沖縄除く各都市）標準施単：鉄筋工事（関東、中部の各都市）、型枠工事（東京）、鉄骨工事（札幌除く各都市）、金属工事（全都市）ほか

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	鋳鉄管切断機と清掃車用ブラシは、最大変動率がそれぞれ 26.7%、38.3%と大幅に上伸しており、前者が溝切刃の上伸(¥27,000→¥34,200)、後者が主ブラシの上(¥58,700→¥81,200)とある。製品部材の値段がこれだけ大幅に上伸した理由は、かなりの品質向上や、製造仕様改善がなされたためか。	溝切刃の大幅上伸の背景は、人件費や製造用機械購入費の上昇によるコスト増である。メーカーが長期間据え置いていた価格を一度に引き上げたため、大幅変動となった。主ブラシの大幅上伸の背景は、構成部材であるセグメントの仕入れ先が生産を中止し、自社生産に切り替えたことによるコスト増である。また、使用済みブラシについて、輸出先だった中国が受け入れを中止したため、廃棄処分に切り替えたことによるコスト増も影響している。

質問 2	<p>土木工事標準単価は、いつ時点の調査値を用いて算出したのか。土木工事標準単価の多くは、材料費(燃料油)の変動影響で、上伸都市(北海道、東北、中国の各県)と下落都市(徳島県、香川県、高知県、沖縄県)に2分される結果となっている。一方、建設物価の燃料油を見ると、今月は四国の高知市だけが下落で那覇市は上伸傾向。また、前月は徳島市、高松市が下落というように、前月から今月にかけて燃料油が下落から上伸へ転じたタイミングであった。土木工事標準単価の調査時期がこのタイミングを取り込んでいるか否かによって上伸と下落区分が決まっているのか。</p>	<p>土木工事標準単価に用いる材料費(燃料油)は、調査時点における最新の単価としており、今回掲載単価は12月調査時点の燃料油単価、前回は9月調査時点の単価を用いている。この間、燃料油単価は下落の後に上伸しており、3カ月前の単価からの変動状況の違いによって、今回掲載単価の上伸と下落が分かれた。</p>
質問 3	<p>ガラス工事【建築市場単価】で、材料仕入価格上昇の要因は何か。</p>	<p>主材料である板ガラス価格が上昇したためである。これはメーカー各社が複数回に渡り打ち出した値上げの一部が浸透した結果である。</p>
質問 4	<p>鉄スクラップ(ヘビーH2)で、価格上昇の背景とされる市中発生量低下の要因は何か。</p>	<p>新型コロナの影響で鉄スクラップ発生量が世界的に減少するなか、国内においても、建設解体工事など老廃スクラップの発生量が減少していることが主な要因である。</p>
質問 5	<p>屋根及びとい工事【公表価格】で上昇した品目は何か。</p>	<p>和形防災瓦、スーパーJII・JII(和形緩勾配瓦)の2製品である。</p>
質問 6	<p>コンクリート型枠用合板、普通合板—JAS品一、構造用合板—JAS品一—のコメント欄に、「生産国の原木不足による仕入れコスト高から、上伸。」とあるが、生産国の原木不足が主たる要因であれば、長期的な傾向と思われるため、今月になって上伸する理由とは理解し難い。一方、このところの下落の理由は、需要低迷下の販売店間の受注競争の激化との説明だったと思われるため、今回の上昇は、生産国の原木不足が背景にあるとしても、直接的には在庫調整の段階を過ぎたと理解すべきか。</p>	<p>ここにきて、生産国では例年よりも早く雨季が到来したことで集荷が遅れているため原木不足が生じている。また、中国や北米での経済活動再開に伴い日本向けの船便確保が難しい状況にある。国内では、これまでに取り組んできた在庫調整が進み、市中には品薄感と先高感が強まった。こうした状況下、流通筋が仕入れ価格の上昇分を転嫁し、需要家が手当てを優先した結果、価格が上伸した。</p>

質問 7	<p>コンクリート型枠用合板価格の下落傾向は、2019年7月以降継続している。「産地の原木不足に加え輸送手段確保が難しくなっているため、入荷量は低水準で推移している。」という価格上昇要因があるにも関わらず、長期間にわたり、下落してきた理由は何か。また、産地の原木不足は今後も続く見通しなのか。</p>	<p>2019年7月以来、価格の下落が続いたのは需要減少に伴う販売店間の競争激化が主要因である。早期に雨期入りしたことで原木不足が続いているが、季節要因であるので今後の動向に注視しているところである。</p>
質問 8	<p>コンクリート型枠用合板は、原料の品薄とコロナ禍に伴う工場の操業停止により供給減が続くそうだが、操業停止中の工場の再開など、回復が見通せる情報はるか。</p>	<p>操業を停止した工場について現時点では操業再開に関する情報は見当たらないが注視しているところである。</p>
質問 9	<p>防水工事、吹付工事【建築コスト情報】で、都市名称、コメントの記載内容が同一であるが、変動率に大きな違いがある。規格・仕様は具体的に何か。</p>	<p>防水工事でメーカー3社、吹付工事でメーカー3社が、製品価格を見直した。【公表価格】帯では、実勢価格の継続的な把握が困難な資材について、メーカー等が発表する価格をそのまま掲載している。価格改定の主な理由は、メーカーの製造コスト見直しや販売方針の変更である。</p>
質問 10	<p>コンクリート型枠用合板は、生産国の原木不足による仕入れコスト高から、上伸となっているが、生産国とは、インドネシアなどの東南アジアが中心と考えてよいか。</p>	<p>主な生産国は、マレーシアとインドネシアである。</p>
質問 11	<p>型枠工事【建築市場単価】で、「土木工事需要が増加している福井地区で、労務需給ひっ迫を背景とする専門工事業者の値上げが浸透」とあるが、増加理由は新幹線関連工事等とみてよいか。</p>	<p>福井地区の土木工事需要増加は、主に新幹線関連工事によるものである。</p>
質問 12	<p>鉄スクラップ（ヘビーH2）の価格が、東京（16,500→21,000円）及び大阪（15,500→20,000円）で大幅に上昇し、コロナ禍前の水準に戻りつつあるが、今後の見通しについてはどのように予想しているか。</p>	<p>新型コロナの影響で、鉄スクラップ発生量が世界的に減少するなか、需要はアジア中心に堅調に推移しており、世界的に需給はタイトな状況である。こうしたなか、国内でも鉄スクラップ発生量の低迷、輸出向け価格の上昇を受けた国内電炉メーカーが、購入価格を引き上げている。世界的な需給ひっ迫は今後も続くとの見方が多く、また、国内の引き合いも強まっているため、目先も強含みの見通しである。</p>

審議結果	「建設物価」1月号、「Web 建設物価」1月号、 「土木コスト情報」冬号、「建築コスト情報」冬号の価格動向に問題はなかった。
------	---

以 上